

経営理念	【教育目標】 のいちっ子 つながるころろ のびゆく子
	【経営目標】 『幼児一人一人を大切に、自ら学ぶ意欲と環境にかかわる力を培う幼稚園』をめざす。
〈子ども像〉	○じょうぶな からだ ○きれいな ころろ ○かがやく ひとみ
	〈幼稚園像〉 ○意欲的に遊ぶ子どもの育つ幼稚園 ○自分で考え行動し、自らしようとする子どもを育てる幼稚園 ○友達と仲良く、思いやりのある子どもの心を大切にする幼稚園
〈教師像〉	○豊かな感性をもち、感じたことや考えたことを表現する子どものいる幼稚園
	○子どもが自分でやってみようとする意欲を大切にして自立していく力を育てる教師 ○一人一人の子どもの心に寄り添いながら援助する教師 ○豊かな環境作りに努め、子どもらしく思いきり楽しく遊ぶ生活を保障する教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師

中期経営目標		短期経営目標	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
			達成状況	評価	考察	評価		
☆ 保育・ 教育活動の 充実	○幼稚園教育要領の内容に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情、意欲及び態度を育てる。	① 子どもと共に遊び、一人一人の幼児の内面を理解する（記録の取り方）	子どもの姿から、記録を行い何を楽しんでいるのか、環境にどう関わっているのか等幼児の内面理解につながってきているが、まだまだ、子どもの育ちの読み取りには課題が残る。	B	達成状況にある記録は、振り返りがしっかりとできていて良い。時間が足りないのではないかと。どうすれば内面理解を深めることができるのか難しいとは思いますが、これからも一人一人のレベルを上げていってほしい。	B	子どもと共に遊びながら、視点をもった記録の取りかたや振り返りを意識したり、子どもの育ちを学期ごとにまとめたりしていくことが大事である。今後も子ども一人一人の内面理解を深めるよう努力する。	
		② 子どもが意欲的に遊びを進めるための園庭の環境づくりをする。（園庭の環境）	職員間で子どもの姿をもとに、明日からの保育内容や環境について具体的な話し合いを行い、共有を図ってきた。発達に応じた遊びとはどのようなものか教材研究を行ったり、環境の再構成を行ったりすることで、子どもたちが意欲的に環境に関わって遊ぶ姿が増えてきている。しかし、充実した園庭の環境作りまでは至っていないことが課題である。	B	子どもとのズレが少なくなっているということは、環境の見直しができているからこそその成果ではないか。経験をしないとわからないこともあるため、教師の指導が必要となるのであろう。	B	学年や異年齢間で、子どもの姿を話し合う中で、職員の教材研究が欠かせない。そのため、計画的に教材研究を行い、子どもたちが意欲的に遊ぶための充実した園庭環境を作っていく。	
		③ 子どもが自ら身体を動かそうとする意欲を育むための遊びの工夫をする。（体力向上・体を動かす楽しさ）	研修会や就学前部会等での学びを活かし保育の実践をしたり、リズム運動や身体を使った運動遊び、集団での遊びを計画的に取り入れ、身体を動かす楽しさが感じれる遊びの工夫をしてきた。一人一人の運動用具との関わり方や楽しみ方を捉えなおしたり、教材研究をしたりしてきたことが、“やってみたい”という意欲や身体を動かす楽しさにつながったことは成果と言える。	A	リズム運動など全身を使って体を動かすことはすごく良い。もう少しレベルアップをしてもいいのではないかと感じる。挑戦していたことが成功して喜んだり、家では見られない姿が見られたことはうれしく感じる。苦手な子どももいるだろうが、取り組みを行うことで子どもたちの運動を楽しむ姿が表れていることは成果と言える。	A	子どもが自ら体を動かそうとする意欲へつながっていくのか、今後多様な動きができるような運動用具や遊びの教材研究を重ね、体力向上や体を動かす楽しさへとつながっていくようにしていく。	
◆ 職員 質向上の 育成・ 運営	○園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために職員が互いに協働する幼稚園を構築する。	① 公開保育や研究を実施し、指導改善に生かす。	公開保育や文献研修、事例研修等を継続的にを行い、研究主任を中心に協議を深めてきた。他職員の意見を聞くことで、自分とは違う見方や捉え方に触れることや新たな気づきがあり、“明日はこうやってみよう”と保育の見直し改善へつながることができた。それを学期ごとに指導計画の見直しを行い指導改善をしている。幼児理解の読み取りの弱さがまだあり、課題といえる。	B	研修は多くあるが、他人事を自分事として考えられる内容が大切であろう。今後もいろいろな研修を行い、学び続け研鑽を重ねていってほしい。	B	様々な研究を計画的に取り入れ、自分事として考え学びにつながるよう、今後も引き続き、子どもの内面理解を深め、資質向上に努めていく。	
		② 安全点検や教職員・子どもの安全対応力を高める。	様々な想定のもと訓練を行い、子どもたちの防災意識が高まってきている。職員も危機管理を意識し直したことで、日ごろから安全面にもより気を付けて行動、再構成するようになった。子どもも火災と地震等の約束事がわかり、訓練時には真剣に取り組み、訓練後の振り返りでは、子どもなりに感じたことや考えを言葉にする子どもが増えている。	A	すごく意識が高いと感じている。小学生になっても幼稚園で学んだことを伝える姿も見られている。振り返りで子どもたちから意見が出ることは日頃からの積み重ねの成果だろう。今後もいろいろな想定をした訓練を継続していってほしい。	A	引き続き、危機管理や防災意識を高めながら、臨機応変に対応できるよう園全体で声の掛け合いをしていく。また、園内だけでなく、保護者の意識とともに高めていく。	
◎ 地域に開 かれた園 づくり	○保護者の安心を得ることや地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園をめざす。	① 保育所・小学校・中学校との連携を大切に、学びがにつながるような交流活動を行う。	他学年での交流活動と一緒に遊んだり、散歩や図書館に出掛けるなど、異年齢児交流を継続してきたことで、異年齢児に積極的に関わろうとする姿や名前を呼びあう姿が増えてきた。また、小中学生との交流で優しく関わってもらった経験が、園内での異年齢児の関わり方にもつながった。	A	交流を継続し深めることで、子どもたちの成長にもつながっている。園外だけではなく、園内での取組も含め、職員自身が子どもの成長を感じていることは成果と言える。	A	園内だけでなく、年長児の保・小交流時の実施案など年長児以外の職員も把握することや他学年の交流内容等も共有していくことを周知し、受け持っている学年のことだけではなく、他学年の取組にも目を向け、学びにつながるような交流活動を継続していく。	
		② 園の取組、子どもの学びや発達が伝わるような情報発信を行う。	保育が伝わり、保護者が読みたくなるレイアウトや内容を意識して工夫をしてきた。学級だよりやドキュメントを作成し、子どもの姿を伝えることができた。子どもの姿を通して保護者と成長を共に喜び合える話をする機会が多くなった。しかし、“もっと伝えたい”という思いはあったが、伝えきれていないことは課題である。	B	行事の見直しについて説明不足と感じたことがあったが説明を聞くとうわかった。また、園からの配布文書の内容が伝わりやすくなったり、レイアウトも工夫され見やすくなったりこの一年で変化が見られたことは成果と感じる。	B	園からの説明責任を果たし、保護者と共有していく。また、保育で大事にしていることとともに子どもの学びや発達が伝えていけるよう情報発信をしていき保護者と共に喜びを共有しあえる関係性を深める必要がある。	